

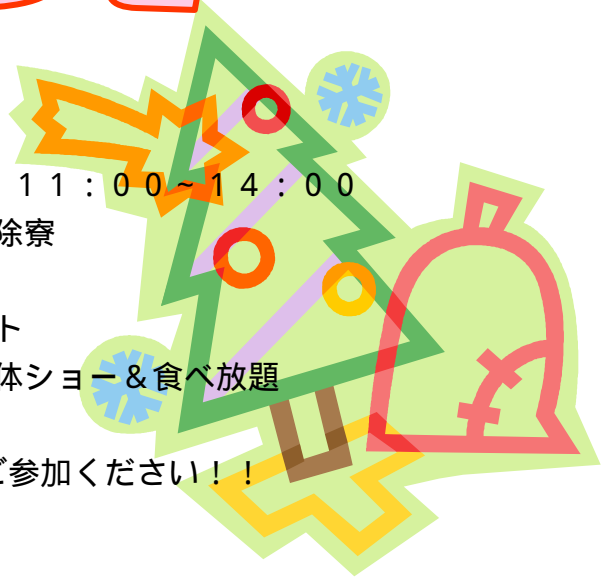


## お知らせ



日時 12月10日(土) 11:00~14:00  
 場所 グループホーム上除寮  
 会費 1,000円  
 内容 旅一座のコンサート  
 君波さんの刺身解体ショー&食べ放題

会員の皆様是非ご参加ください!!



### 旅一座より...

旅一座 小林千佐子(フルート)  
 羽賀 和子(ギター)  
 土田 一博(ギター)

私達は福祉施設を中心に活動している音楽ボランティアグループです。メンバーには20代~60代の音楽好きな仲間が集まり、共に楽しみながらハーモニーの楽しさを味わっています。楽器はフルート、ギター、ウクレレ、ハーモニカ、リコーダー、大正琴などで、毎月福祉施設へ訪問、入所者とのコミュニケーションを図りながら、メンバーの手作りケーキとコーヒーを持参し音楽を提供しています。月1回のこの出前喫茶を楽しみに待っていてくれるので、大変やりがいがあり、すでに始めてから4年経過しています。その他、学校、コミュニティセンター、国営越後丘陵公園(森の音楽会)各種イベントなどで活動をさせていただいています。

皆様とのふれあいを大切にして、声がかかれば気軽に出かけていく「旅一座」です。

# Let's talk together!

## メンタル通信

### G.H.上除寮 一泊旅行



ジェットフォイル搭乗券  
 新潟 → 両津  
 10月11日10時00分



10月11・12日、上除寮初めての一泊旅行。佐渡へ行ってきました。二日間とも好天に恵まれ、波も静かで絶好の旅行日和。新潟港より出港。

第1日 小木港(たらい船) 砂金とり、アルコール共和国。

宿泊は海のそばにある「ホテル万長」。美しい夕日を眺め、(少し乙女チックになって)ひと風呂浴び、宴会に行こう。

第2日 もう一つの目的である作業所見学。佐渡には二つの作業所があり、その一つ「岩百合作業所」を見学させていただいた。発足は家族会とのこと。定員20名。仕事はお土産の風呂敷包み、その他。仕事のなくなることはないとのこと。うらやましいことでした。

観光は尖閣湾、船に乗り海に出ました。次は佐渡金山。人形が人間だと思ったと腰を抜かしそうになった人もいました。白雲台、朱鷺の森を周って両津港へ。夕方、無事に上除寮へ帰ってくる事ができた。



そこで一句(俳句?)

佐渡沖に 沈む夕日の 秋の風  
 上除 世話人 中野陽子

# 佐渡ヶ島1泊旅行 G.H.上除寮



新潟港から両津港行のジェットfoilで一時間ぴったりで佐渡の両津港へ着きました。とても楽しかった。佐渡の所へ近づいたら島が見えて来ました。食堂で昼食を食べ猫がいたのでかまったりした。

小松政司さんと言う人が佐渡を車で案内してくれた。中野さんと二人でたらい舟に乗った。お光吾作のたらい船に乗った。

旅館へ着き、一泊した。夕食も朝食も大変おいしく食べられた。温泉で露天風呂で太陽が柏崎の東の輪の海へ沈んでいったのを眺めた。とても良かったでした。

色々な人とのふれあいもありました。おけさ柿の木の枝を切られて背の低い木でした。佐渡ヶ島やっぱり流人の島らしくてちょっと寂しく感じました。でも住んで見れば都といいますが、そうかもしれませんね。お酒もビールも飲みました。

次の日、金山にも入りました。金すくいもしました。竹下登さんが写真に写っていました。創政会と書いてありました。金ののべ棒も売っていました。金にも触ってみました。

今日は上除寮へ帰る日で小松政司運転手さんから色々な所へ連れて行ってくれました。皆で遊覧船にも乗りました。佐渡の両津港から新潟港まで1時間ぴったり丁度で着きました。2日間とても楽しい思い出になりました。カメラで写真も81枚全部撮りました。

ペンネーム：佐渡 淳平

佐渡はとっても素晴らしい所だった。一度前々から行って見たかった。とても良かった。どうもありがとうございました。

秋晴れの天気恵まれてジェットfoilで60分佐渡の名所をめぐり一泊二日の旅行を楽しみました。特に金山では先人の苦勞をしのばれる展示でした。少々くたびれましたが久々の旅行で気分もリフレッシュ。来年もこうした企画を立ててください。

ホテルで夕食を食べた後で、部屋のいすの上で、寝てしまって温泉にも入らないで朝まで寝ていたらしいので、何も覚えていません。佐渡を周ったのはわかるけど、楽しかったけど...

残念なことに、4人の人たちが不参加だった。来年は是非みんなで行きましょう。今回初めての旅行だったため、スタッフが計画を立てたが、これも次回はメンバーの皆さんが主体となってできたらと思います。

# がんばろう虹！

メンタルヘルス協会 副会長

服部潤吉

地震から一年過ぎた。先日小千谷や川口を訪ねた。あちこちに新しい家が建っていた。静かな夕暮れ、みんな必死で黙々と生活を立て直そうとしていた。手押し車に座っていたおばあちゃんがいとおしくてならなかった。祈っていた。

夏ころから仮設住宅のグループホームからの引越しをめざし、いくつかの家を見てきた。もう一度仮設で冬を越したくないという気持ちだった。草むして、みるからに老朽化していてとても住めそうにない民家もあった。

たまたま知り合いの方のついでで袋町に4階建てのビルが空いていることがわかった。共同作業所「希望の家」も一緒に入居できたらいいねとお誘いした。希望の家も老朽化が進み、地震でより深刻な事態になっていた。何度も建築会社や設計事務所を訪ね、ようやく、設計図ができ、地震の復興基金への要望書も作った。大家さんにもみんなでお願ひに行った。そしてなけなしの我が法人の金庫から手付金を用意し、いよいよ契約の日が決まったとき、断りの連絡が入った。建築業者と大家さんとが最後のところで折り合いがつかなかったとのこと。結局はお金のことか。改築費の見積もりはグループホームだけでも5,000万を超えていた。

それから、神田に3階建てのビルを探した。活動の内容にも理解を示してくれ、前のビルより新しく、これなら改築費も安く済みそうと期待した。見積もりを業者から出してもらった。今度は何とかかな。

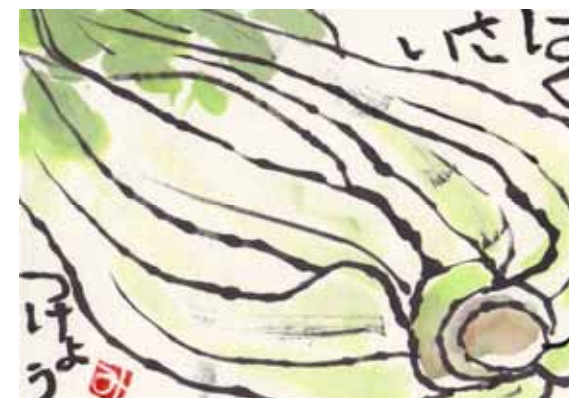
ところが先日連絡があり、いろいろ検討したが、無理だとのこと。耐火構造の変更など法律による改修工事が必要のため改修費は思いの外かさんでしまう。(一定以上の改修の場合改めて現在の法規での建築の許可を受けなければならないのだ。その建築許可になっていてもそのままでは許可にならないし、工場と多数の人が宿泊、利用する住まいとでは基準が違うのだ)またビルの購入費のローンを毎月多額に払っており、採算が取れないのでお断りしたいとのこと。入居後の家賃だけでは改修費に足りないのだ。

がっかりをこえ、何も話せない気持ちだった。

業者の人たちや大家さんたちには心から感謝したい。それぞれの人たちがそれぞれの立場で誠実に動いて下さった。

グループホーム虹を訪問するたび、メンバーの何人かは「この先どうなるんだろうか、何とかたのみます」と言う。そのたびに何とかする、といい続けているし、それは今でも変わらない。冬が来て、今年はここで過ごすことになる。メンバーに聞くと、ここは意外と暖かいから、毎日おいしいご飯が食べられるからと笑顔を返してくれる。また、しょんぼりとして仲間に話すと、「こんどはもっといいところを探そうよ」と励ましてくれる。近いうちに別の建築屋さんにお願ひにいくことにしている。

今年は雪が少ないことを祈る。とりあえず私のできることは、また歩くこと、メンバーを励まし守ること。



あの地震から一年があつという間に過ぎてしまいました冬がやって来ますねいつもみなさまに感謝しながら手を合わせながら生きています。

中川光子